

グループホームまこと 運営推進会議 議事録

平成 28 年 3 月 16 日 (水)

14 時～15 時

小規模多機能型居宅介護まこと 2 階

司会 西崎 (小規模管理者)・柴田 (グループホーム長)

書記 石井 (グループホーム管理者)

参加者

- ・荒谷 トキ様 (町内会婦人部)
- ・西村 ミヨイ様 (民生委員)
- ・佐渡 広成様 (グループホームまこと ご家族様)
- ・木田 孝志様 (小規模多機能型まこと ご家族様)

1 挨拶

2 運営推進会議とは

3 事業運営報告

- ・ 1 月・2 月のサービス利用状況 (小規模・グループホーム)
- ・ まことでのサービス内容、行事等 (小規模・グループホーム)
- ・ 利用者ご家族様からの声
- ・ 1 月・2 月の事故報告について
- ・ 地域包括支援センター様・居宅支援事業所様からの声

4 質疑応答 (意見交流)

5 その他

- ・ 小規模多機能
- ・ 町内会活動、地域交流への参加について
- ・ ボランティアの受け入れ
- ・ 今後の活動 等

(2) 事業運営報告

■ 1～2 月の介護度別サービス利用状況

(1 月 31 日・2 月 29 日付)

要介護	1月 小規模	2月 小規模	1月 グループホーム	2月 グループホーム
要支援1	1名	1名		
要支援2	1名	1名	0名	0名
要介護1	6名	6名	0名	0名
要介護2	9名	9名	2名	1名
要介護3	6名	6名	8名	9名
要介護4	2名	2名	3名	4名
要介護5	3名	3名	4名	4名
計	27名	27名	17名	18名

西 崎：1月の中旬に利用者様がお亡くなりになりましたが、2月に新規の方が入居となっておりますので実人数は変更ありません。柴田が不在のため代わりに報告致します。2月に要介護2・3・4と人数が変更となっております。

■ 小規模まことでのサービス内容・行事等

・1月1日(水) 初詣 13:30~14:30 6名参加

西 崎：元旦なのでご自宅で過ごしている方も多く、参加人数が少なくなっており2階のアシストリビングの方を中心にお連れしています。このレクに参加するために来た利用者様もおおり、三吉神社にお参りに行ってきました。

・1月9日(木) 書初め 13名参加

西 崎：当事業所の職員のお母様が習字の先生で、書いてもらった物を手本にして書いたり、好きな言葉を書き楽しまれました。

・1月21日(火) まことクッキング(おしるこ) 16名参加

西 崎：当事業所は白玉ではなく、イモ・カボチャの団子に代替えをして提供していますが嚙下に問題のある方には汁のみを提供をしています。

・2月3日(水) 節分&恵方巻きクレープ 12名参加

・2月17日(水) クッキング トライフルを作ろう 13名参加

・2月16日(火) 作品展見学&湿原ドライブ 8名様参加

・2月18日(木) 作品展見学&湿原ドライブ 9名様参加

西 崎：大地みらい信用金庫様の多目的スペースをお借りし利用者様が作成した作品を展示させて頂きまして、それを観に行きました。法人全体で参加し、11月から作品作りに取り掛かっていました。当日作品を観て喜ばれていたり、他事業所の作品を観て「これは立派な作品だ」と感心されてました。

■ グループホームまことでのサービス内容・行事など

・1月4日(月) 初詣 ~三吉神社~

・1月5日(火) 初詣 ~三吉神社~

- ・ 1月 5日(火) ナルクボランティア ～日本舞踊と大正琴～
 - ・ 1月 6日(水) 初詣 ～釧路八幡神社～
 - ・ 1月 7日(木) 初詣 ～釧路八幡神社～
- 柴 田：4・5日は1階利用者様を対象として三吉神社へ、6・7日で2階利用者様を対象に釧路町の釧路八幡神社に参拝へ行っています。
- ・ 1月 8日(金) インフルエンザ 集団接種(任意：2回目)
 - ・ 1月 25日(月) 新春 カルタ・ジェンガ大会
- 柴 田：1・2階利用者様合同でカルタ・ジェンガの出来る方に参加して頂き、対抗戦で行っています。
- ・ 2月 2日(火) ナルクボランティア
 - ・ 2月 3日(水) 節分 ～恵方巻きと豆まき～
- 柴 田：昼食に恵方巻を提供し、午後から豆まきを行っております。
- ・ 2月 14日(日) バレンタイン～チョコケーキ～
 - ・ 2月 15日(月) ホットケーキ作り
 - ・ 2月 16日(火) 誕生日の外出 (1F～はまだ 2F～泉屋)
- 柴 田：毎月誕生日会として対象利用者様と、職員と参加できる家族と一緒に好きな物を食べに行くという企画を行っております。今回1階は「はまだ」に天井を食べに行き、2階は「泉屋」のスパゲッティを食べに行っております。
- ・ 2月 17日(水) 大地みらい信用金庫にてまこと展示会 (1F～午後 2F～午前)
 - ・ 2月 23日(火) 出前のお楽しみ食事会 ～ピザ10.4 他～
- 柴 田：日常の家事の手伝いや展示会用作品作りのほか、今回は日本製紙クレインズ観客席用座席カバー作りなども行っていました。クレインズさんのHPにも掲載されておりますが、ファン誌の方にも法人内で取り組んだ内容が掲載されていました。

■利用者ご家族からの声

小規模

- * 父を母が住んでいるGHやよいに入居させることは、家族としては戸惑いがあります。どこか入居できる特養など申し込んで頂けないか？

(E.O様 家族より)

西 崎：E.O様については、質疑応答の際に詳しくお話させて頂きたいのでこの場では控えさせていただきます。

- * 急に母が亡くなり、戸惑いもありましたが、5年間もまことさんにお世話になって良かったと感じております。わがままな母に親身に付き合ってもらって頂き大変有難うございました。

(M.S様 ご家族様より)

西 崎：前回の運営推進会議の当日に急遽入院となりお亡くなりになられています。朝食も食べ、朝も私と会話をしていました。10時頃から胸の苦しみを訴えており、顔色も蒼白、意識も失い緊急搬送し延命措置をしましたが14時頃お亡くなりにな

なられました。病名は急性心筋梗塞でした。急な事だったためショックを受けている職員もいましたが、ご家族様からはこのような言葉を頂き心が救われました。

- * 急遽入院になりましたが、無事にまことに戻って来て良かったです。もう、どこも行きたくありません。まことさんと良ければ、ここで生涯過ごしたいと思います。

(M.Y 様 ご家族様より)

西 崎：この方はアシストリビングにて生活されていて、身寄りがなく生活保護を受給し利用されています。小規模でも看取りをうたわれている部分もあるので、対象にしてはどうかと職員と考えています。緩やかに身体機能の低下や食事量も減っており、体重も落ちています。医療機関と相談しながら今後の方針を決めていきたいと職員一同で考えています。

グループホーム

- * 私たちが来て顔を見れば甘えて何でもわがママを言ってきます。あまり来ない方がいいんでしょうかね。差し入れもあまり持ってこない方がいいですね。

(K 様 ご家族様より)

柴 田：この方は入居されて3か月程度で、GHに入る前は住宅型有料で生活をしていました。GHとは違い単独で外出も出来ますし、時間が限られている中で困った時だけサービスを受けられている方でした。ほぼ一人でなんでもされていたのですが、そこからGHの管理がある生活に移行してきてご本人様が理解できず対応できないことがありました。ご本人様が対応できないのは百も承知なので問題はないのですが、ご家族様に中々理解してもらえないことがありました。差し入れについては生ガキをタンスに入れたり、生卵をテーブルにおいていたりという事もありました。ご家族も本人に言われたらなんでも買ってきてしまい、取り扱いについてはすべて本人任せにしてしまっています。なので職員が把握できなく、やけどをしてしまったりと二次的被害が起こってしまっているのご家族様と話をしています。そのあとにこのお話がありました。今現在3か月経過して、ご本人は少しずつ「ここは良い」「ここはダメ」という線引きが見えてきておまして、生活に少しずつ馴染んでいるかなと感じております。

- * (KPである) 妹が亡くなりました。最期まで母の事を案じていました。母には何も伝えません。これからも母には内密をお願いします。(Y 様 ご家族様より)

柴 田：この方は入居される前に、同居されていた長女様を亡くしお一人で生活出来なくなったためGHに入居となりました。今回献身的に支援してくれていた娘様も同じく癌で亡くなり、お母様はわかっていません。最近面会に来ていないことも忘れていきます。ふと思い出したら名前は出てきますが、今となってはその娘様の名前を話す事はありません。次女様・三女様の判断でお通夜・告別式にも参加しておりません。ご家族様の意向もありますので、このまま事業所としては内密に対

応していこうと思っております。

- * リハビリ（歩行が完全に1人でできるように）をしてくれる所を探して欲しいと言われてます。先生がいて息切れするような訓練でないと納得しないようなんです。本人には「探してはいるけど、中々見つからない」と伝えてください。

(S様 ご家族様より)

柴 田：前回の運営推進会議でもお話させてもらいましたが、中々自分の考えと体がマッチしてなくて「自分は練習さえすれば歩ける」とご本人は自信をもって考えています。実際は歩けるようになることはないと言われているし、少なくともGHに入っている以上は認知症が進行している段階です。骨粗鬆症もありそれでも歩けるようになると思い込み、単独で歩き出しはじめると、二次的・三次的被害が必ず出ると予測されています。ご家族様は歩行される事を望んでいません。ただご本人の生きる希望として、歩行される事を望んでいます。この兼ね合いをどう捉えていいものか、GHとしては考えも定まっていなこともありまして、またご本人とご家族様を踏まえて話し合いをする予定になっています。

- * ものを言わず、わかりずらい母の異変に気付いてくれてありがとうございます。職員の皆さんにもお礼を伝えてください。本当に感謝しております。

(T様 ご家族様より)

柴 田：この方は認知症も進んでおり、現時点で要介護3ではありますがご本人で歩ける方でした。同性介助を嫌い、異性介助を求める女性の利用者様です。女性の職員が介助に入ると蹴りやつねる行為がありました。ほとんどお話をされない方なんですが、いつもと様子が違うなと職員が気付きました。病院受診の日ではなかったのですが、ご家族様を説得しその日に受診をして頂きました。その日の病院では「なんでもない」と帰ってきたのですが、職員目からするとおかしいと思う部分がありまして、もう一度翌日同じ病院を受診して頂きました。そのときに胆嚢炎が発見され、現時点も入院となっています。胆嚢炎で入院に至りましたが、結果は肝臓も悪くなっており多臓器不全の疑いです。食事もとれずに点滴のみで薬を入れている状態で、そのまま解約という運びになっています。ご家族様からは「苦痛だ」「不快だ」と訴えられる方ではなかったもので、本当に気付いてくれてありがとうございますという言葉を頂きました。

西 崎：皆様のご意見を伺いたいのですが、では佐渡様から。

佐渡様：火傷したというのは、どんな風に火傷をしたんですか？

柴 田：この方は極度の寒がりです、ご家族様が電気毛布やあんかを持ち込まれる経緯がありました。ただ自分で管理ができないという事もあって、その日は湯たんぽをバスタオルに巻いて本人につかないように置いていました。夜中1時間おきに巡回

しているのですが、起床時にバスタオルを外して肌に湯たんぽをつけているところを発見しました。背中を見たら赤くなっていました。ただ思っていたより軽い症状で、発赤は何日もしない内に治まりました。大きな水膨れもなかったのも、経過を見るかたちでご家族様には説明させて頂き完治した事がありました。生ガキについてはご家族様が仙鳳趾の方で、お母様にカキを・・・

西村様：私は果物の柿だと思っていました。

柴 田：海の方のカキですね。GHは冷蔵庫の持ち込みはありません。必ず管理できなくなる日が来て、その時に撤去すると物盗られ妄想に発展していくので、入居することをきっかけに冷蔵庫の持ち込みをやめて頂いているんです。しかし、その方にはいろんな来客があるので「職員さんに見つからないように」と置いていくんです。見てみるとカキがあったり、生卵があったりと・・・

佐渡様：食材は基本持ち込めませんよね？

柴 田：持ち込めません。

佐渡様：それは言っているんですか？

柴 田：言っています。入居当初は生寿司やお刺身を持って来てまして、それについては食事と一緒に提供していました。しかし、職員に「お部屋に置いてありますから」という連絡がない物に関しては本人が部屋にいない時に家探しをして発見する事がありました。ご本人様は生ものが大好きなので、それを思っご家族様も持ってきてはくれているとは思うんです。ただ見えないところで他の利用者様にあげられることが危ないので。

西 崎：続きまして、荒谷様から何かありませんか？

荒谷様：聞きました。

西 崎：聞きましたか。では、西村様からは何かありませんか？

西村様：大変ですね。家族なり本人がそう思ってもね。

柴 田：ご家族様は介護事業所って全部一緒だと思うんですね。なので簡単に説明させて頂くと住宅型有料とGHは同じ小売業だとすると、八百屋さんや魚屋さんでまったく違う商品を扱っており、サービス内容が違います。でもご家族様はわからないので、魚屋さんでキャベツが欲しいと言われていたようなもの。「そのようなサービス提供じゃない」と説明はさせて頂きその時にはご理解されているようにも伺えるのですが難しいです。

佐渡様：歳はいくつくらいなんですか？

柴 田：ご家族様は50代です。何度も話せばわかると思われれます。話をした際は理解をされているのですが、次来るときは大抵何かを持ってきています。

西村様：食中毒が起きなかったからいいものとして、何かあったらわかりませんもんね。

柴 田：そうですね。居室に置いている探しきれなかったお菓子もあって、ごみ箱の中に空袋があって初めてわかる。

西村様：悪臭もしてくると思いますし。

佐渡様：部屋があっただかいですもんね。

西村様：そうですよね。

柴 田：中々イタチごっこで今は。

佐渡様：三番目の歩きたい人は一番困る方ですもんね。転倒の恐れがありますもんね。

柴 田：この方は骨粗鬆症もあって、心臓にも病気があってペースメーカーを入れていません。元々呼吸器・肺の機能も良くないので通常で呼吸していても、体に取り込める酸素の量が他の方達より少ないんです。なので運動負荷量を掛けるには管理が必要です。しかし、ご本人としては「練習さえすれば、歩けるように必ずなる」と希望を持っています。それが生きる希望になっているので、どう話をしたらいいかなと悩んでいます。

西村様：あからさまに言えないですもんね。

佐渡様：一人で歩こうとするの？

柴 田：今はないですね。以前はプライベートレッスンといって個別のリハビリを受けていました。金額自体が高いのでご家族様も経済的にそこにお金をかけるなら別な物にかけたいという事で契約を切ってしまった経緯も本人の不満に繋がっています。それを家族には言えず、その不満は職員へと向けられています。なので名出しで「柴田さんちょっと」と呼ばれて話をしたことがあります。

佐渡様：明らかに転倒する方はドキッとしますよね。こういう方はたくさんいらっしゃいます。

柴 田：まことに入居してから転倒して入院をした経緯があるので、まこととしては歩かせるのには不安があります。

佐渡様：歩けると思っていますからね。そういっても中々難しいですよ。また病院に行かなきゃならなくなりますもんね。

柴 田：はい。

西 崎：木田様から何かありますか？

木田様：K Pの妹さんが亡くなったというのは、私の家内と同じような話です。家内の母親が95歳でケアハウスに入って居たんですけど、パーキンソン病が進行して胃ろうの手術をしたんです。特養の話もあったんですが、入らず進行して胃ろうの手術をしなければならなくなりました。ケアハウスも解約しまして入院生活になりました。家内が一昨年亡くなったんですけども、母親にはまだ言っていないんです。頭はしっかりしているんですけども、声が出ないんで筆記で行っています。遠いんですけども耳は聞こえるので、家内は股関節が前から良くないとの事で北見にいる従妹が見てくれているんですけども「じゅんちゃんね、股関節が悪くて調子悪いから冬の間は来れないから。暖かくなったら来れると思うからね」と話を合わせているんです。同じような方がいるんだなと聞いてまして、可哀想だなと思いました。

柴 田：言えないですもんね。

佐渡様：結構そういうケースありますもんね。奥さんと呼んでいる人いるもんね「おーい、おーい」って。

西 崎：小規模も「絶対言わないで下さい」と言われれば、管理者・介護リーダー・代表取締役だけにしてスタッフには言わないです。言ってしまうとそこから漏れてしまう可能性があるのも、絶対止めるようにしています。

佐渡様：うちの職場は職員全員に言いますけど・・・

西 崎：言っているような内容であればいいんですけど、デリケートな話になるとどこで漏れるかが分からないんです。ふとしたはずみで言ってしまう人もいるので、そのような対応をしています。

■1月・2月の事故報告について

	小規模 1月	小規模 2月	GH 1月	GH 2月
アクシデント	0件	0件	0件	1件
インシデント	2件	2件	6件	10件
ヒヤリハット	3件	3件	3件	0件

西 崎：具体的な内容としては必ず落ち転倒など1月に2件ありまして、インシデントはレク中の手の切り傷ですね。使い方を誤って手を切ってしまったという事故で、大けがではなくて2・3mm切って出血し絆創膏で収まっていた。これに対しては包丁を100円均一の子供用の先端の丸い物で試してみようと考えています。ヒヤリハットは薬の内容とバルーンのねじれが数件あります。

柴 田：GHは小規模に比べると件数が多くなっています。2月のアクシデントについては2月16日に行われたお誕生日の夕食レクの話です。この方は食後に飲む薬はなかったんですが、食前に飲む薬はありました。しかし食前の薬を持たず出かけてしまい、食前薬を飲まずに夕食してしまったという事でアクシデント報告として挙げており市にも報告済みです。1月2月通してインシデントが多くなっており、内容としては車いすの利用者様がスタッフのいない間に自らベッドから移動した事が2件ありました。他には目の前のチリ紙を口内に入れてしまった異食未遂、ベッドに横になる際に上に進みすぎて柵に頭をぶつけてしまったのが1件。バルーンと言って管をつけて尿を出すんですが、そのチューブに接続部があるんですが物によっては緩い物ときつい物があるんです。この時は緩い物に当たってしまい、布団をめくった際に抜けてしまった事が1件ありました。他には食前薬の飲ませ忘れがあり、急遽食後薬に回したのが1件。排便を促す薬で医師から事業所に裁量権をもたせられて調整してもいいというお薬があるんですが、職員同士の伝達が上手くいかず3日出ていなかったのに飲ませなかった事がありました。しかしGHまことは他事業所に比べて基準を厳しくしており、法人内でも事故報告が多く断トツ1位に上がる程でした。4月から基準を緩和する予定で、ヒヤリとして事故につながっておらず、研鑽としてインシデントとしてあげているものが多

岐にわたってありましたので、他の事業所と同じ基準を設けていく考えです。

■ 地域包括支援センター様・居宅支援事業所様からの声

西 崎：今回は欠席のため割愛させていただきます。

4 質疑応答（意見交流）

小規模多機能まことより

西 崎：先ほど利用者様の声でご紹介させて頂いたE.O様についてお話させていただきます。まず概要をお話した上で、質疑応答という形をとらせて頂きたいと思っております。これからはO様としてお話させていただきます。現在O様は77歳の男性で、利用開始時は要介護2の方でした。平成27年9月30日に小規模多機能の「宿泊サービス」と中心に利用されております。それまでは緑ヶ岡にて奥様と二人暮らしで、本人にもアルツハイマー型の認知症の診断がありましたが、奥様の方が認知が強くO様はそのイライラが募り、奥様に対して怒鳴ったり暴力行為に発展していきました。普段のO様も怒りっぽく以前利用されていたデイサービスの職員に対して性的行為や下ネタ話が好きな一面もありましたが、社交的な方でもありました。元漁師で夜な夜な夜遊びをし、破天荒な生活を繰り返されていたと話を受けています。小規模の利用に至った経緯としては、元々GHやよいで夫婦一緒に入居を希望していましたが1室しか空いていませんでした。やむをえず認知症の重い奥様がGHへ入居し、比較的にしっかりされているO様はGHが空くまで小規模を利用となり、長女・長男様の説明の元で理解をされています。長女・長男様は日高・東京に住んでおり、緊急時の対応は釧路町に住んでいる実妹夫婦が対応し、小規模利用後の定期受診は有料ボランティアで行うように取り決めをしておりました。GHやよいも1～2カ月程度で空きが出る見込みがあり、その短期間での小規模利用でO様は理解し西崎からもそのように本人に再度話をしておりました。その間は大声・夜間不眠などの周辺症状がありましたが、職員との関係性を築き一見して馴染まれている様子も見受けられました。12月になり両足に浮腫がみられ家族と相談し泌尿科に受診して頂きました。医師より排尿の出が悪いとのことで導尿カテーテル処置を行いました。O様本人も両足の浮腫で単独での立ち上がりが困難となり車いすを多用するようになり、12月の介護保険変更申請では要介護5で認定されています。O様は浮腫の痛みより、次第に日常的にイライラしている様子も見受けられてきましたが、12月23日の忘年会で久しぶりに奥様と対面し泣かれていました。1月上旬にGHやよいに空きができH長より長女様に報告したと連絡が入りましたが「今までの父がし母にしてきた暴力行為があり、本心ではこのまま一緒に暮らしてほしくない」と長女様より話があり、入居を見送りにしてほしいH長に説明されていました。また長女様より西崎に対しても「小規模でお世話が困難であれば、別なGHか特養に申し込んでほしいと要望が聞かれておりましたが西崎としては、当初と話しが異なっている

のでGHやよいと家族とで再度調整してほしい旨を伝え、やよいのH長と相談しておりました。特養に関しては西崎より実際に他のGHと特養に申し込みをしましたが、「院内介助で同席できる家族がいることが前提」と見送りになってしまいました。他系列のGHからは「人員が少ないので、いきなり大変なケースは受け入れられない」との話がありました。本人からは「いつまで、俺はここ（小規模）に居るんだ？話が違うじゃねえか？」と疑問を持たれていました。そして1月下旬頃より精神面や人格に大きな変化があり、当職員を始めご家族様共々対応に困惑した事がありました。それは他の利用者様に対して被害的かつ攻撃的な言動や行動が目立つようになり、目の前を通り過ぎただけで「お前ら何やってんだ！ぶん殴るぞ」と威嚇行為や実際に手を挙げる行為がみられるようになりました。止めに入った介護職員に対しては怒りだし手を挙げられる行動がみられています。内容としては他利用者の足を蹴る、背中を平手で叩く、食事時に茶碗を目の前の利用者に見掛けて投げつける。大声と言葉にならない奇声を発していました。特に夜間など表情が険しく23時～4時頃までほぼ眠られず、声を掛ける職員に対して顔・腕・背中に殴る蹴るなどの暴力行為や大声と奇声にて暴言で他利用者様が眠れない事がありました。日中・夜間と覚醒時には常に大声で独語があり、居室にいる利用者様や面会に来たご家族様に対しても車椅子で自走し居室前で「何しに来やがったんだ！」と大声で怒鳴られることがありクレームの対象となっています。機嫌が悪い時は、食事や内服薬を拒否する事が時折あり「毒でも入っているんだろう？食べてたまるか！薬も飲まねえぞ！」と大声で叫ばれることもあり、ご家族様と相談の上休薬することもありました。何故、1月より不穏状態が見られるようになったのかO様自身と話し合いを行い、大筋の内容としては「腰と両下肢の痛みにて眠れなく、頓服薬も効かない。触っただけでも痛いんだ」と話し「イライラし、もう死んでも良いので周りなどどうでも良い。すぐにでも脳外科に行って良くしてもらいたい」と怒り口調で訴えていました。他利用者様からは「何とかしてくれ、眠れない。あの爺さん狂っているし職員が可哀想。自分が直接言ってやりたいが、大声で怒鳴られるし殴られてしまいそうで怖い」と、宿泊されている利用者様数名より不満と恐怖の訴えも度々聞かれるようになりました。2月19日に日高から面会に来られた際には現状報告と実際に不穏の現場も拝見されています。苦肉の策として、掛かりつけである脳神経外科医師に対して精神科受診が出来ないか相談しましたが2カ月待ちとのことでした。その間は脳外より安定剤と頓服薬、就寝薬が処方され強い薬のため2月25日から2週間おきに受診されていました。1週目は夜間は良眠で大声もなく穏やかな反面、呂律が回らない言動も多く車いすでの座位姿勢の安定も困難な場面が多々見受けられました。寝ている事が多くなったため、両足の浮腫は消失し痛みによるイライラ感がみられなくなりました。2週目には高熱が出て内科受診時に「肺炎になりかけている、頓服薬が強いからかもしれない」との医師からの診断あり、頓服薬の容量を調整し脳外受診まで過ごしていました。可能な限り頓服薬は控えようとの

試みで本人の状態も改善しつつあり、食事もお粥から常食に戻られています。しかし、他者に対して暴言が聞かれるようになり、3月10日の受診時に脳外の医師と相談し内服薬調整を行っております。現在夜間は比較的に良眠で、以前のようにイライラすることはなくなりましたが、時折感情が抑えきれなくなり大声を出したり、「娘に会いたい」と泣いたりすることもあります。

今回の事例をお話した意図としては、このようなケースを抱えた場合は薬による対応は正しい選択だったのかと参加されているご家族様にご意見を伺いたかったです。他、当事業所ような小規模の介護事業所では、精神科など医療専門機関のような内服薬調整は難しい旨を知って頂きたく、お話をさせて頂きました。佐渡様からご意見頂けますでしょうか？

佐渡様：本当であれば薬は使わない方が良くはありますが、そうせざるを得ない場面もありますよね。薬もドラックロックになりますが、過剰に摂取した場合であり線引きが難しいですね。その線引きは医者と職員の情報をまとめて決め、あとは家族へ「こういう状態だから、こういう薬が処方されました」と説明をしっかりと観察と記録を残し、それを報告していくことで薬を少しずつ減らしていくという方向性だと思うので。この特養を申し込んでもらえないかというのは、事業所で申し込むんですか？

西 崎：本当であればご家族様が申し込む事が望ましく代行もしていないんですが、この方は特例でご家族様が日高でいつ釧路に来るかがわからないため行いました。

佐渡様：実の妹様夫婦いらっしゃいますよね？

西 崎：妹様夫婦はされなく、本人がこのような状態であることも知らないです。緊急時の対応のみであるため、何かあった場合は事業所からではなく長女様から頼むような形です。

佐渡様：薬を服用して動かなくなり、足の痛みが消えたんですよね？

西 崎：そうです。

佐渡様：痛みもないから、イライラもなくなったんですね。

西 崎：そうですね、イライラもなくなりました。

佐渡様：結果としていい方向へ向かって、今は落ち着いているんですか？

西 崎：今は落ち着いていますが、薬はグラマルールを飲んでいてリスパダールもありますが飲まない日もあります。大声を出していた時などに服用してもらっています。医師からは夕食後に定期でもよいと話があったのですが、職員としては踏み込めなく頓服薬にしています。

佐渡様：食事はとれていますか？

西 崎：皆さんと輪になって食事をされていまして、調整は上手くいっていると感じています。他者からのクレームも減ってきています。

佐渡様：でも、薬を使用する際はどっちに向くかわからないですよね？専門の医師でもその人がどんな反応するかはわからないですし、副作用もあるかもしれないですし。

西 崎：今までそのような薬を飲んだことがなかったのも良かったのかもしれない、効き易

かったのかもしれませんが。しかし、1週間もすると慣れてきて夜中起きてきたりもしていました。

佐渡様：昔は過剰に服薬して動かせなくしていましたよね。写真も残っていますし、牢獄のような部屋に入れられてね。今はそのようなことはないけれども。調整が大事ですよ。

西 崎：私もドラックロックになってしまうのではないかと不安で、職員間でもう少し頑張れないかなと思ったんですが、職員からは限界だと話しがあまして。

佐渡様：僕もドラックロックを考えてしまうんですが、いろんなケースを見ていると使わざるを得ないですよ。自分の親が今そうなので、迷惑かけるかなと思うので自分の親なら「使ってください」と言ってしまいます。職員さんの気持ちもわかりますし、他の利用者様も嫌がると思いますし。そのあとのフォローが大事かなとは思っています。叩いたりするのは本人なんだけど、本人じゃなく病気がさせているから。

西 崎：当時は「ここに長くいない」と話しをされていたんですよ。お薬を飲んでからは言わなくなったので、認知が進んだのかなと思っていて心が痛い部分もあります。それまでは「西崎さん、話が違うんじゃないか」と言っていたので、胸にくるものがありました。

西村様：足の浮腫もありましたもんね。今はそれが落ち着いたからよかったですよね。

佐渡様：家族さんの気持ちもわかりますよね。お母さんに暴力を振っているところを見てね。自分の親とダブるので、私もそう言うと思います。それくらい子供の頃に受けた影響は強いと思います。

西 崎：そうですか。4月に精神科の受診があるので、ご家族様が付き添って頂ける予定になっています。

佐渡様：2カ月待ちですか？

西 崎：そうです。市立の脳外から紹介してもらいました。

佐渡様：紹介でも待たなければならないんですか？

西 崎：待てるケースではない事を伝えると次の日にと言われたんですが、家族が日高からはすぐ来れないので、なくなってしまうことになりました。

佐渡様：家族がいないとだめなんですね。

西 崎：だめですね。遠方という理由があっても、初診のみは必ず家族様同席でと病院から言われました。

佐渡様：なるほどね。

西 崎：貴重なご意見ありがとうございました。

5 その他

- ・ 今後の活動について
(小規模多機能)

3月1日 まこと工作～雛人形作り

3月11日 民謡鑑賞会

3月21日・27日 春のお茶会

西崎：六花亭を予定しております。

4月4日・6日 お買い物ツアーin コープさっぽろ貝塚店

4月20日 道の駅 恋問館へドライブ

(グループホーム)

3月 桃の節句・開設記念・誕生会・ボランティア

4月 出前お楽しみ食事会・誕生会・ボランティア

柴田：毎年例年でいけば外食レクを企画していましたが、前年度から誕生日の方を外食レクにお連れしているのので4月の外食は取りやめております。その代わりに出前のお楽しみ食事会を企画しています。

その他：防災訓練（4月予定）

柴田：小規模は夏に防災訓練を予定しています。

次回開催予定日 平成28年5月18日（水）14時 小規模まこと2階リビングにて開催